

**【主な個別施策の成果と関連事業の政策評価結果】**

部局名	原爆被爆対策部	
個別施策	B1-1 平和・原爆施設の整備及び被爆資料の保存・活用を図ります	
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図
	平和・原爆関連施設、被爆資料・被爆遺構が	適切に整備・保存され、被爆の実相が効果的に伝わるよう公開されている。

令和3年度の取組概要

- 原爆資料館の管理運営
  - ・原爆資料館の適切な維持管理により安定的な運営に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症に対し適切な対策を講じ、被爆の実相の継承と平和の発信の取組みを推進した(臨時休館期間:4/28～6/7、8/10～9/12、1/23～2/20)。
  - ・「平和・原爆」のホームページについて、情報を系統立てて見やすく整理し、被爆の実相をわかりやすく伝えるホームページへリニューアルした。
- 被爆資料の収集強化
  - ・被爆者のいない時代を見据え、被爆資料の収集強化を図るため、引き続き、被爆者へ収集に係る周知と呼びかけを行った。
- 被爆建造物等の公開
  - ・長崎県防空本部跡(立山防空壕)については、調査設計等の結果、Aエリア(非公開部分)の公開に向けた安全性が確認された。
- 長崎原爆遺跡の保存・活用の取組み
  - ・平成28年10月国史跡指定後も引き続き、他の被爆建造物等を含めた遺跡の保存・整備・活用を着実に進めるため、補完調査を行った。
- 被爆樹木の保存整備
  - ・枯死した屋外展示が限界となった城山国民学校カラスザンショウを被爆校舎内に移設した。
- 「長崎クスノキプロジェクト」の推進
  - ・「平和のバス」の運行やオンラインミーティング動画のインターネット上での公開、被爆樹木パネル展の開催等、プロジェクトによるプロモーション活動を積極的に行った。
  - ・総合プロデューサーの福山雅治氏が、ラジオやSNSを通じて、プロジェクトやそのプロモーション活動についての告知を行った。

評価(成果)

- 原爆資料館の管理運営
  - ・指定管理者により、新型コロナウイルス感染症に対し適切な対策が講じられ、「team NAGASAKI SAFETY」の認証を受けるなど、利用者が安全・安心に来館できる環境づくりが進んだことで、修学旅行生等観覧者数の回復につながった。
  - ・「平和・原爆」ホームページのリニューアルにより、閲覧者がほしい情報を容易に入手できるようになった。
- 長崎原爆遺跡の保存・活用の取組み
  - ・国指定史跡長崎原爆遺跡整備基本計画に基づき、旧城山国民学校校舎の耐震診断を実施するなど今後の活用に向けた取組みを推進した。
- 「長崎クスノキプロジェクト」の推進
  - ・市内の被爆樹木を紹介するWEBサイトに22,191件のアクセスがあり、関連する動画の総再生回数は37,422回(令和4年5月17日時点)を記録したことで、多くの方に被爆樹木を介した被爆の実相や平和の尊さを知ってもらいきっかけとなった。

評価(問題点とその要因)

- 原爆資料館の管理運営
  - ・少子化の影響による修学旅行生の減少に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による移動自粛やインバウンド観光客の停滞などにより、来館者数の大幅増には至っていない。

今後の取組方針

- 原爆資料館の管理運営
  - ・指定管理者と連携し、コロナ禍においても安心して来館できる対策を講じるとともに、施設の安全性確保や利便性向上に取り組み、多くの方に来館してもらうための施設運営を図る。
- 被爆資料の収集強化
  - ・収集を行った新着資料を含め、収蔵資料にまつわる被爆のエピソード等の聴き取りを実施し、資料のカルテ化を推進する。
- 被爆建造物等の公開
  - ・長崎県防空本部跡(立山防空壕)については、立ち入りの安全性が確認できたAエリア(非公開部分)の公開を含め施設全体の観覧環境の整備を行うことで活用を図る。
- 長崎原爆遺跡の保存・活用の取組み
  - ・国指定史跡長崎原爆遺跡を確実に保存し、活用するため、保存活用計画及び整備基本計画に基づき、保存整備の優先順位の高い、旧城山国民学校校舎の耐震工事に向けた基本設計・実施設計に着手する。
- 「長崎クスノキプロジェクト」の推進
  - ・引き続き、総合プロデューサーの福山雅治氏と被爆樹木のプロモーション等を行い、被爆の実相の継承と平和の発信を行う。

【主な個別施策の成果と関連事業の政策評価結果】

関連する主な事業名			
頁	事業名・目的・概要	事業実績、成果・課題等	
94	<p>(事業名) 長崎原爆資料館運営費</p> <p>(事業目的) 被爆資料等の展示を通じ、被爆の実相を伝え、平和を発信する拠点施設として原爆資料館を運営する。</p> <p>(事業概要) 原爆資料館の施設や設備の管理運営を行う。1,556点の被爆資料等を展示している常設展示室のほか、収蔵資料展などの企画展を年間を通じて開催している。また、被爆体験講話等に利用できるホール(348人収容)や平和学習室(130人収容)、約2万8千冊を収蔵する図書室がある。なお、施設の維持管理については指定管理者者制度を導入している。</p>	成果指標	原爆資料館入館者数
		目標値	710,000 人
		実績値	310,166 人
		達成率	43.7 %
		決算額	133,973,730 円
成果指標・目標値の説明	<p>被爆の実相を国内外に広く伝えていくためには、原爆資料館を多くの方に見てもらうことが重要であるため、入館者数を成果指標とした。</p> <p>観光客数(暦年)に対する来館者割合の平均値(平成24～26年度)と令和2年の観光客数の目標値を乗じた数値を、令和2年度に引き続き目標値とした。</p>		
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 総入館者数 310,166人 (うち、修学旅行生 149,697人) ・ホール利用件数 183件 ・企画展 1回 約58,000人 ・図書貸出冊数 9,176冊</p> <p>(成果・課題等) 令和3年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたが、修学旅行生が約5万7千人増加するなど、入館者数は全体で前年度比約31%の増となった。コロナ禍が続いているものの、入館者が今後増加することも想定しながら、利用者が安全・安心に来館できる環境づくりの取組みを継続させる必要がある。</p>		
頁	事業名・目的・概要	事業実績、成果・課題等	
96	<p>(事業名) 【単独】平和施設整備事業費 長崎原爆資料館</p> <p>(事業目的) 原爆資料館の施設や設備を年次的に改修し、建物の保存を図るとともに、来館者の安全性、利便性の向上を図る。</p> <p>(事業概要) ・雨漏り対策防水改修 ・自動制御装置リモート機器更新 ・空調設備改修</p>	成果指標	施設内の整備項目
		目標値	3 項目
		実績値	3 項目
		達成率	100.0 %
		決算額	43,947,100 円
成果指標・目標値の説明	<p>来館者の安全の確保、利便性の向上を図るため、整備を実施する項目の数を成果指標とした。</p> <p>年次的に整備することとし、令和3年度は3項目の整備を実施することを目標とした。</p>		
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 施設を良好な環境に保ち、来館者の安全確保と利便性向上のため、整備を実施した。</p> <p>(成果・課題等) 整備により、施設の維持管理が図られた。原爆資料館は開館から25年以上が経過しており、建物や設備が老朽化している。今後も引き続きこれらの整備を行うことにより、被爆継承、平和発信の拠点施設として永続的な運営を図る必要がある。</p>		